

114
A 3855



山林
山林
班

事タル浩トノ津涯ナキカ如シト雖氏今茲ニハ殊
ニ其一班ナル官林ノ制度上ニ係ルモノヲ論セントス而
ノ凡ソ事先ツ其綱目ヲ甄別セサレハ細微ヲ明晰スル能
ハス故今官林ノ主管官林ノ措置官林ノ賤務ノ三大陣ヲ
敷演シ徐々論鋒ヲ試ニト欲スルナリ

官林ノ主管ヲ論ス

抑モ本邦山林ノ事タル旧藩々其制ヲ異ニシ保護上自ラ
愛疎ノ別ナキニアラスト雖氏之ヲ擬スルニ何レノ藩ト
雖氏政廳中ニ山林奉行地方モヨリ名稱ハ異ナル一種ノ
官署ヲ設ケ專ラ政廳ノ直轄ニ歸セシメ敢テ郡吏代官等
ノ手ニ放任セシモノアルヲ聞カス是レ林改ハ民政ト自
カラ其趣旨ヲ異ニシ殊ニ之ヲ牧民官ノ主管ニ委スヘカ

大正
十一年
四月
贈



ラサル理由アルニ依ルノミ
試ニ往時ニ遡リ其一例ヲ挙ケンニ本邦山林ノ美ヲ稱ス
ル者ハ首トメ木曾及秋田ノ官林ヲ推サ、ルハナシ抑々
木曾官林ノ良材ニ名アルヤ年已ニ久シ矣然ルニ旧名古
屋藩所領ノ當初ハスヘテ之ヲ其當時ノ地方官山村氏ニ
委セシガ林相漸ク衰廢シテ殆ント兀山ニ垂々セ
セシトスルニ至レルヲ以テ寛政度以來之レカ特別ノ
官署ヲ設ケ別段ノ法則ヲ定メ專ハラ茲ニ從事セシメ
漸ク頽勢ヲ挽回スルヲ得タリ當茲時地方官ハ苦
情百端眞人民ニ不利ナルヲ唱ヘ陷井ヲ國中ニ作ルトミ
フニ至リ而メ其山林官吏ヲ視ル嚮々ニ寇雠ノミナラサ
リキ然レモ旧藩大ニ此ニ見ルアリ果斷敢行遂ニ其目
的ヲ達シ木曾官林ノ美ヲ今日ニ存シ細民ノ營業ヲ

永遠ニ保ツテ得タル者是皆旧藩措置ノ宜シキヲ
得シニ依ルノミ而メ彼ノ所謂人民ノ不利ナル者果ノ何
クニアルヤ若シ之ヲシテ當時地方官ノ苦情ニ逡巡シ謀コ
ト此ニ出サラシメハ木曾官林ノ美ヲ今日ニ觀ル能ハサル
ミナラス該地ノ山民ヲメ永ク其營業ヲ失ヒ如何ナル悲惨
ヲ入テ日ニ見ルモ亦未タ知ルヘカラス故ニ林政ハ決シテ一時ノ
利害ヲ以テ之ヲ論スヘカラサルナリ
且旧秋田藩ノ能代川上官林ヲ處分スルガ如キモ亦全
轍ニ出ツル者ナリ其他諸藩ノ措置大ニ全小異ノ別アリ
ト雖モ要スルニ比自ナ期セスシテ同一主義ニ歸スルモノ、
如シ顧フニ當時封建政治ノ區々ナルニモ拘ハラヌ獨リ林
政ノ其機軸ヲ全シクスルモノハ林政ハ民政ト其趣ヲ異ニ
スルカユヘニ其經理モ亦之ヲ一手ニ付スヘカラサル所以ノ理

由アルヲ以テ數百年来之ヲ實際ニ經驗シテ其區別ヲ
ナセシ所以ニアラザルヲ得ンヤ

然ルニ廢藩後一時官林拂下ケノ令アリシヨリ林政ノ紐
鈴頓ニ弛緩シ盜伐濫採接踵シテ起リ加フルニ往々
官林ヲシテ士族授産學校資本等ニ濫用シ恰モ遺
棄物ヲ爭擢スルカ如キ慘狀ヲ現出シ来リ官林ノ衰頹
是ニ至テ極ル莫本省夙ニ之ヲ憂慮セラレ断然拂
下ノ令ヲ廢シ而シテ林政挽回ノ議ヲ講セシメ主トシテ官林
作業法ヲ施行シ遂ニ山林弓ヲ創設セラレ漸次地方ヲ
直轄ニ切セシメントスルモノニ至ラ内ニメ本邦ノ慣法ニ
依リ之ヲ外ニハ海外ノ良法ヲ斟酌ニ國家永遠ノ福祉
ヲ今日ニ播種セシトスルニ外ナラザルヘシ
人或ハ云ハシ己ニ林政ノ擴張ヲ回リ永遠ノ福祉ヲ播種

セントシテ今日ノ如ク僅カノ局負ヲ地方ニ孤ヤシ植
樹ニ從事セシムルモ山野ノ廣キ事業ノ大ナルトモ周
到スヘキニアラス寧ロ其得失相償ハサルヤカラシカ
如カス
之ヲ地方官ニ委任シ多頭ノ點官巡查ヲ驅テ山林保
護ニ從事セシムンニハ其費ハ半ニノ功ハ必ス倍セント
嗚呼此ノ論ヤ彼ノ宋人ノ苗ヲ播クモノニ異ナラス西哲語
アリ時運未タ到ラサルニ先タツテ迂濶ノ者望ヲ起シ
荒唐ノ意思ヲ懷キテ將來永遠ニ期スヘキモノヲ知ラ
ズ直ニ之ヲ目前ニ致サント企テ既ニ其得ヘカラサルヲ
見忽テ慨然トシテ世ヲ厭フカ如キノ狀アル勿レト山林事
業ノ如キ亦然リ決シテ一朝夕ノ得失ヲ以テ永遠ノ利
害ヲ判スヘキモノニアラス宜シク根ヲ深クシ蒂ヲ固クシ
事業ヲ永遠ニ期スヘキ也

抑モ本局官林作業施行以來未タ二周年ニ至ラス
何ヲ以テカ輕々人目ヲ驚カス程ノ事業ヲ為スヲ得ヘク
ニヤ否為スヲ欲セカレナリ如何トナレハ本來植樹ノ業ヲ
ル一度ト其實際ニ着手スルハ一年一年ヨリ之レカ費
用ヲ嵩加セカレヲ得サルモノアレハナリ故ニ輕々巨大ノ事
業ヲ起シ一時人目ヲ驚カスモ後來維持保護ノ目途
鞏固ナラサルトキハ要スルニ皆徒勞ニ止マリ宋人ノ苗ヲ
助長セシニ異ナラス膏ニ益ナキノミナラス適サニ之ヲ害スレ
ニ足ルリ故ニ官林事業、要ハ着カ歩ヲ進メ虚構ヲ去
リ実益ヲ圖リ良ク回ラ永遠ニ保持スルニ在リ

今ヤ一歩ヲ進メ更ニ山林ヲ中央局ニ直轄スルト地方官
ニ委託スルトノ利害ヲ講究セントス西哲ノ山林改法ヲ
論スル者曰ク山林ノ如キモ固ヨリ社会中ノ一部分ニシテ

決シテ社會外ニ孤立スルモノニアラサレハ山林ノ治務モ
亦タ一般ノ改法ニ從ハサルヲ得スト雖モ山林ノ治務ト一
般ノ治務ト大ニ其趣キテ異ニスルモノアルトキハ乃チ山
林治務ヲ分画シテ一種ノ改法ト爲サレラ得スト一般山
林ノ政務スラ尚然リ何リ況ニヤ政府特有ノ官林ニ於
テラヤ

夫地方官ナル者ハ地方牧民ノ事ヲ職トシ其責任ノ
多岐ナル戸籍アリ勸業アリ教育アリ衛生アリ警保
租税土木アリ皆是レ治民ノ要務ニシテ其執掌謂フ
ヘカラス又何ノ暇アリテ故ラニ其責ヲ附加シ政府ノ財産
ヲ殖益スル途ノヲ求ムヘケンヤ況ニヤ山林事業ハ單ニ
一種ノ學術ニ屬スルモノニシテ決メ他ノ職務ニ渾同スヘ
カラサル性質ヲ有スル者ニ於テラ宜シク専門ノ官

職ヲ設ケ責ヲ一途ニ歸シテ之レヲ提轄スルニアラサレハ
能ハサルナリ安ニソ牧民官ハ片手仕事ニ委附シテ可
ナランヤ

且夫レ官林ハ水源防風杆砂ノ如キ國土保安ニ政府ノ一大財
産ナリ決メ徒ニ國土ノ裝飾物トシテ觀美ニノ供スヘ
キニアラス宜レク損益ヲ評較シ殖益ノ作業ヲ爲サ、
ルヘカラス而シテ其事業ノ性質上ニ就テ論スルトキト固
是私権上ヨリ成立スルモノニシテ改権ニ関スルモノニアラ
ス然ルニ今若シ地方官ラシテ官有ノ財産殖益ノ事
業ニ從事セシムルハ其弊人民ト利ヲ争ヒ如何ニ歎
御者ヲ民政上ニ與フルモ測ルヘカラス是レ理論上ヨリ論
スルモ實際上ヨリ論スルモ到底其赴キラ異ニスルモノニ
シテ一般ノ林務ト分画セサルヘカラサルナリ故ニ官林作業

ハ之レヲ中央局ノ一手ニ提掌セサレハ決シテ行ハレヘカラサルナ
リ

官林ノ措置ヲ論ス

本邦ノ地タル位置ハ三帶ノ中央ヲ占メ物産ハ兩間ノ良種ヲ鍾メ陸ニハ膏腴ノ土壤ヲ擁シ海ニハ舟舶ノ便利ヲ有ス殊ニ古來山林ノ秀羨ナル何レノ州何レノ地ト雖氏到叢林越ノ鬱蒼森茂ナラサルハナシ是レ海外國人ノ常ニ賞難欣羨已マサル所ニモ實ニ以テ富國ノ觀光ヲ誇ルニ足レリ

然ルニ近古世潮蕩揺各藩用度ノ欠乏ナルニ際シ官林ヲ賣却シ或ハ之ヲ藩士歸農ノ資ニ充テ為メニ其林相ヲ衰殘スルモノ鮮少ニアラス加之人民モ亦隨テ目下ノ細利ニ迷ヒ各自ノ民林ヲ暴伐侵採シ殆ント禿兀ニ歸セシムルニ至リ而モ當時ノ輿論墾田ノ業ニ偏重シ野ニ山ニ苟モ地質ノ稼穡ニ堪フルモノハ悉ク之レヲ開墾ニ附シ水

源涵養土砂扞止等國土保安ニ関スルモノスヲ委棄シテ顧ミサルニ至ル林政ノ衰頽蓋シ此時ヨリ甚タシキハアラズ是ヲ以テ現今僅カニ官林ノ名アルモノト雖其地質硤确ノ地ニアラサレハ深山幽谷ノ僻地ニメ將來殖益ノ見込アル地ハ二三木曾秋田ノ地方ニ過キサルノミ其他多クハ員外林社寺上地林ノ如キ狹隘ノ地各處ニ星散シ到底殖益ノ森林トナスニ足ラス今ニシテ早ク改良ノ策ヲ講シ新設林ノ法ヲ興サスニハ國家ノ疲弊火ヲ見ルヨリモ明ナリ

論者或ハ云ハシ本邦ノ官林實ニ七百萬余町アリ之レヲ外國ノ官林ニ比スルニ過ルアルニ及ハサルハナシ尚何ソ新設林ヲ要センヤト此論ヤ蓋シ坐上ノ算談ニシテ未タ官林ノ實境ニ歩ヲ入レサル空想ナリ夫レ本邦從來ノ

慣行ニ據レハ山野ノ地積ハ總テ斜面積ヲ以テ算セルモノナルカ故ニ其名ハ七百萬町ニメ其實恐クハ五百萬町ニ過キサルヘシ中ニ就テ高岳アリ斷崖アリ水源涵養土砂扞止防風風致等ノ禁伐林アリ之拂除セハ餘ス所僅ニ三百萬町ニ過キサルヘシ然而シテ此三百萬町タル大低皆天造林ニシテ未タ曾テ人力培養ヲ施シタル合規ノ樹林ニ非ス加フルニ近來盜火ノ慘害ヲ蒙リ頗ル其林相ヲ傷損スルカ故ニ直ニ之ヲ以テ決シテ他ノ歐洲諸國ノ森林ト並稱同視スヘカラサルナリ

如聞獨乙國ハ距今三百年前大ニ林政ヲ皇張シ一旦既ニ田畝トナセシ耕地ト云ヘトモ往ニ森林ニ復歸セシメ而シテ茲國ノ官林ハ殆ント五百萬町ノ多キヲ有シ其年々ノ收入ハ六千萬圓余ノ巨額ニ及フモ猶且未タ供需相償ハ

内務省

ス魯西亞地方ヨリ年々多分ノ木材ヲ輸入スルニ至ルト
由是觀之本邦三百萬町ノ官林ハ未々決シテ多シト云フ
ヘカラス何ソ況ニヤ真成ノ樹林ニアラサルヲヤ又況ニ
ヤ自他需用大小同日ノ論ニ非サルニ於テヲヤ
論者又云ハシ果シテ七百町ノ内僅カニ三百町ノ外
植林ノ見込ナキトセハ其他ノ官林ハ徒ニ贅疣ニ過キサ
ルノミ又何ソ夥多ノ經費ヲ要シテ之レカ保護ヲナス
ヲセニヤ
此客難ヲ氷解セシニハ指ヲ國庫ノ理財上ニ添メサルヘ
カラス
聞ク處ニ據レハ現今大藏ノ理財ニ於ル國債償却ニ宛ツ
ルニ税外収入ヲ以テセリト蓋シ海關稅ノ改正ナキ已上
ハ又止ヲ得サルノ理財ナリトス

是ヲ以テ從前官林ヨリ生スル收利ハ悉ク税外トナシ大
藏ニ輸納セサルヘカラサル成規ナリ故ニ目下無用ノ官
林ナリトテ猥リニ之ヲ賣却シテ大藏ニ輸納スルトキハ
官林ノ經濟上ニ於テ從前財本ヲ減耗スルノミニシテ回
復ナキノ消費ト云ハサルヲ得ス故ニ當今ニ在テハ彼令
將來殖益ノ見込ナキ細小ノ地ト魚氏カメテ之ヲ維持保
存シ他日關稅ノ改正ヲ決行シ國債償却ノ理財立チ從前
税外ニ歸セシ官林主副產物トモ均シク官林作業ノ收入
ニ歸スルノ日ヲ期シ始メテ員外林社寺上地林ノ如キ田
圃間ニ點在スルモノ及其他ノ不用林ハ之ヲ賣却シテ更
ニ他ノ殖林地ノ資本ニ供スヘキナリ故ニ今日ニ在テハ
カメテ財本ヲ減耗セサルヲ要セサル可カラス
論者又或ハ云ハシ果シテ然ラハ從前ノ官林ヲ賣却シ作

業ノ資本備テ后新植林ニ着手スルモ敢テ晚シトモサレ
ヘシト嗚呼論者ハ官林ノ事業ヲ見テ一朝一夕ノモノナ
リトスルカ

論者請フ静思セヨ用材林ハ八十年乃至百五十年ノ星霜
ヲ経サレハ用材ニ供シ難シ其新炭林ト虽氏十五年已上
ヲ経サレハ伐期ニ至ラサルモノナリ然リ而シテ大藏ノ
理財ハ廣ク内外國ニ関スルヲ以テ官林一部分ノ為メ容
易ニ改正ノ望ヲ期シ難シ左リトテ荏苒ニ過キ新設林ニ
着手セサルトキハ異日木材欠乏ヲ訴ル場合ニ臨ムモ將
々之ヲ如何セシヤ故ニ官有原野ノ植林ニ適スル地ヲ探
ミ綢繆ノ策ヲ要スルハ今日ノ急務トスル所以ナリ
是ニ本論ヲ終ルニ臨ミ猶一言セサルヲ得サル要點アリ
アルベトル民國政山林學ニ曰ク官林ハ官有地ノ一部分

ニシテ又々農務ノ一種類ニ属スルカ故ニ正理ニ由テ論
スレハ官林ハ大藏卿ト勸農事務長官ト同權利ヲ以テ同
シク之レヲ管理セザル可ラス而シテ大藏卿ハ専ハラ國
家ノ理財ヲ目的トスルカ故ニ勢ヒ自ラ可及的官林ノ利
潤ヲ企謀スルノ弊ニ陥リ易ク又々勸農事務長官ハ専ラ
勸農ヲ目的トスルカ故ニ常ニ耕作ノ害タリ易キ官林ヲ
管掌スルニ當テ自然耕作ノ利益ヲ謀ルニ過キ官林ノ利
益ヲ抑制スルノ弊ヲ生シ易キモノナリ由此觀之植林ト
墾田ノ業ハ決シテ一方ニ偏スヘカラス試ニ見ヨ維新以
來施置上果シテ植林ニ偏セシカ將々墾田ニ偏セシカ其
別智者ヲ待スシテ知ルヘキナリ然レ氏論者本部ノ官林
ハ今日ノ有様ニ足レリ別ニ后患アルヘキノ理ナシト
云ハ我侪又何ヲカ云ハシ若シ實地ト後患ノ如何ヲ顧

慮セハ宜ク绸繆ノ策ヲ今日ニ講セサルヘカラス

官林ノ財務ヲ論ス

國家ノ財産トハ政府特有ノ物件ニシテ猶人民各自財産
ヲ所有スルニ異ナラス蓋シ政府ノ財産其種類多
シト雖凡其最モ鞏固ニシテ最モ多額ナルハ官林ニ如ク
モノナシ故ニ官林ハ國家公債ノ抵当トナシ以テ不
虞ノ用度ヲ支持スルノ準備ニ供スベリ苟モ國家ノ存
スル限りハ一日モ欠クヘカラサルノ物件ナリトス故ニ
其管理ヲ嚴ニシ之カ措置ヲ施サスニハ帝ニ政府ノ
財務ヲ誤ルノミナラス國家人民ノ不幸ヲ来スマ必セ
リ矣

既ニ官林ノ財務ヲ以テ緊要ナリトス又隨テ是レカ
經濟ノ目途ヲ定メサルヘカラス試ニ従テ前各藩ニ於テ

其官林ヲ特有シ之レカ保護繁殖ヲ務メタル所以ノ
モノハ其殖益ノ收利ヲ以テ藩費ヲ補助スル主義ニ
出タルカ將タ他ノ租税ノ幾分ヲ費シテ徒ニ邦土ノ
美ニ供シタルモノナルカ安リ徒ニ邦土ノ觀美ニ供シタ
ルモノヲラン其ニ藩費ヲ補助スルノ旨趣ニ出テタル
知ルヘキノミ果シテ然ラハ殖林ノ事ハ仮ヒ一時他ヨ
リ其資本ヲ借用スルモ決シテ國費ニ依テ經濟
ヲナスモノニアラズバズ獨立運轉ノ經
濟ヲ設ケテ之レカ財務ヲ謀ラサルヘカラサ
ナリ是レ其官林ハ政府ノ私産ニメ決シテ之ヲ
他ノ公費ト混同スヘキモノニアラサレハ
ナリ

官林ノ財務果ノ獨立運轉ノ主義ヲ有シ決テ國

費ニ依ルヘキモノニ非サルカ然ラハ則如何ノ方法
ニ據リ如何ノ措置ヲナスヘキヤ曰ク唯「作業法」ア
ルノミ議者或ハ作業法ノ動モスレハ收利ノ一
邊ニ偏シ遂ニ苛伐ノ弊ニ陥ルヲ過慮スル者ア
ラン是レ未タ作業ノ主義ヲ解セサルニ
坐スル耳

作業ノ主義ハ海軍ノ造船陸軍ノ造兵印刷
局ノ製紙ニ於ケルル如ク其收利ニ依テ運用
ヲナス所以ノモノニシテ其法既ニ製作シタル
物品運用シ而シテ其殖益ニ依テ又更ニ製
作運用ヲナスモノナリ今支現在ノ官未
ハ即チ前キニ製作セル物品ナリ之ヲ成
塚シテ更ニ之ヲ新殖スルニ猶他ノ製作

シタル物品ヲ運用シテ更ニ又製作ノ資本ト
ナスニ異ナラス其事業ノ大ハニ依テ年月ノ
長短アリト雖モ其際ハ則チ未タ曾テ同
スニハアラサルナリ況ニヤ官林ハ一時ニ之ヲ伐採
スルモノニアラズ各其生長ノ年度ト需用供給
ノ如何ヲ計リ適宜之ヲ伐採シテ其永遠不朽
ノ經濟ヲ計ラサル可ラサルニ於テヤ故ニ作
業法ニ依レハトテ決シテ苛伐ノ弊ニ陥ルノ
相^托憂ヲナスニ及バス其要伐ルヘキヲ伐リ植ユ
ヘキヲ植ユルニ外ナラサルナリ

議者又云ハ本局官林ノ作業法ハ故内務卿常ニ官林殖益ニ熱
心セラシ得サニ大ニ為ス所ヲラントセシニ適々西南ノ事件ニ際シ國費多
端未タ官林ノ財務ヲ計ルニ餘地ナカリシヲ以テ不得止一時作業法ニ依テ

之ヲ維持セラレシト雖モ敢テ永遠ニ施名スル主義
ニハアラサヤシ也故ニ治平ノ今日トナツテハ宜ク之ヲ
永遠不易ノ國庫ニ仰クベキナリト此言タル官林財
政ノ成立如何ヲ問ハス徒ニ苛伐ノ弊ヲ過慮シ
テ強テ之ヲ國庫ニ仰カント欲スルノ主義ニ外ナラ
ズ官林ノ財政ハ之ヲ永遠ニ保持シ決シテ
一朝ノ治亂ニ依テ其經濟ヲ異ニスヘキモ
ノニテアラズ況ニヤ治亂興廢ハ常數ナキ
ヲ於テヤ

又西南ノ一徑ヌヲ猶且之ヲ國帑ニ仰クヲ得エシテ作
業費トナシタルニアラスヤ若他年或ハ國家ノ帑
庫疲弊ノ日ニ會セハ論者ハ寧ロ官林ヲ放棄シ
去ラントスルカ將タ一朝直チニ作業費ニ改メントスルカ抑

山林ノ財務ハ一事業タルモ猶數年ノ久シキニ涉ラザルヲ得サルモノナリ決シテ一朝潤手攫粟ノ収利ヲ博シ得ラルヘキモノニアラス好シ今日ノ山林ハ如租ナリ今日ノ事業ハ狭少ナリ今日ノ經濟ハ僅少ナリトシテ之ヲ左右變換轉移スルニ難カラサルハ他年事業漸ク進歩シ經濟ノ圍範擴張スルニ至ラハ一時ノ變異ニ由テ容易ニ之ヲ改革スルヲ得サルヘシ

唯然リ故ニ官林ノ財政ハ豫テ獨立不易ノ基本ヲ確定シ後令一朝ノ變故ニ會シ国库欠乏ノ時ニ遇フト金氏依然ノ節ヲサレノミナラズ及ラ其収益ヲ以テ國費ヲ補助セサルヘカウサルモトトス是ニ由テ觀ルハ其当初作業費ニシタルハ推フニ

必ス此ニ見ル所アツテ然ルナラン然レモ今如ク論者ニ一步ヲ譲リ全ク己ムヲ得サルニ出テシモノト仮想スルモ其措置期セスメ官林財政ノ主義ニ符合シタルモノト云フベシ又何ソ遽カニ改カ改易ヲナスヲ要センヤ且聞ク歐洲立君ノ邦國ニ於テハ山林ノ經濟ハ固ヨリ別途ニ之レヲ設ケ其収益ヲ以テ國費ヲ助クルノ法ナリシガ独リ佛國ハ革命已來之ヲ國費ニ混同シ渾テ議院ノ指定ニ任スルトナレリト本邦立國ノ淵源ヨリ今日ニ至ル迄國體ノ存スル所ト制度ノ由テ出ル処ヲ推究セハ固ヨリ佛國革命ノ轍ヲ亂ズヘキニアラス宜シク立君國ノ制度ヲ採用スヘキ也若シ今日若クハ昔ノ法ヲ施キ苟モ山林ノ費用ヲ國庫ニ仰クカ如キノ措置アラシメハ他年國會容喙ヲ免レサ

ルヤ必セリ

又聞ク林政法案ハ君主ノ專制國ヲ除クノ外立憲
政体ノ國ニ於テハ代議者ノ駁撃ヲ受ケ其可誌ヲ得
ルノ難ク共和國ノ如キハ殊ニ甚シトス故ニ瑞士ハ古来
ヨリ今ニ至ル迄山林ノ法案ヲ代議員多數ノ可決ヲ
經テ認許セシ一ツモ之レアラズ是ヲ以テ談國ハ
山林法案ノ議案ハ(ヘート)ノ權立法府ノ議定ヲ施
禁止スルノ權行スルニ至レリト苟モ是等ノ國ヲ官林ノ財務ヲ
國庫ニ仰カシメハ遂ニ其制手肘ニ苦シミ之カ目的ヲ
達スル能ハザルベシ豈ニ深ク鑑戒セサルヘケニヤ
議者或ハ云ハントス今日ノ作業法タル其名ハ異ナ
レ氏其實ハ均シク國庫ノ出納ニ関セリ上曰ク
然リ官林モ亦タ政府財政ノ部分ナレハ其出納ノ國庫ニ関

スルハ言ヲ俟タス然レ氏亦未定額費ト作業費
トハ其性質ヲ異ニシ交互主客ノ別ヲナセルモノナ
リ試ニ經濟上ヨリ論下セヨ定額費ハ消費物ニ屬シ作
業費ハ財本ニ屬スヘシ故ニ定額費ハ年々國庫ノ消
費トナリ復入ノ期ナシト虽氏唯タ作業費ハ當初
資本ヲ貸与スル迄ニテ爾後ハ年々其利且ヲ附シ之ヲ
復入セシムル法アリ故ニ官林費額ヲ定額ニ仰ク及定スルトキハ
國庫ノ措置ヲ掌ルモノ主トナリ之レヤ給与ヲ仰ク官林ハ必ラス
客位ヲ占メサルヲ得ス果シテ此ノ如クナラハ執執カ國庫ノ措置上
ヨリレテ官林ノ事業モ自ラ伸縮セサルヲ得サルニ至ルヘト虽氏其謂
作業費ハ然ラス且資本ヲ國庫ヨリ借用スルモ其資本ノ作業
者ノ管理ニ歸シ独立運行恰モ高賈ノ資本ヲ借用シテ
營業スルモノニ異ナラス故ニ其資本ヲ管理スル作業

者ハ主ナリ其餘羸ヲ請クル國庫ハ客ナリ是レ必竟
兩者ノ性質上ヨリ主客ノ位置ヲ異ニスル所以也
議者又云ハシ定額ト云ヘハ徒ニ國費ヲ消費スルモノ、
如シト虽氏其官林ヨリ生スル一切ノ收利ヲ奉テ國庫ニ
輸納スルトキハ即チ國庫ノ財本復入セシモノナリ其得
失何ツ異ナル所アラニヤト
支レ然リ豈夫レ然ラニヤ抑モ論者ノ主義トスル然政府
ノ施業上ニ於テハ彼是ノ別ナク均シク國庫ニ関スルモノハ
概シテ一体同轍ノモノナリトスルカ惑ルモ亦甚レト云ヘシ
若シ果シテ論者ノ言ノ如ク家ノ財務ニ於テ一体同轍ノ
主義ヲ是トセハ政府何カ故ニ殊更作業法ヲ設クル
ヲ得ヘキヤ
蓋シ政府ノ施設ニ於ル公法ニ屬スルモノアリ私法ニ屬

スルモノアリ宜シク其措置上ニ於テ之レノ區分ヲナサ
ルヘカラス是レ則チ定額ト作業ノ別アル所以ナリ復
何リ敢テ許多ノ論辨ヲ要センヤ
由此觀之官林ノ財務ハ理論上ヨリ論スレハ公私權ノ區
別アリ實際上ヨリ論スレハ事業施設ノ便否アリ知ルヘ
シ作業別途ノ經濟トナシ獨立不羈ノ基本ヲ確立シ以テ
國家永遠ノ鴻圖ヲ謀ラサルヘカラサルハ疑ヲ容レサル
可ラサルヲ

結論

前三條ノ論理ハ本邦官林ノ管理上ニ係ル要領ニシテ制
度ノ由テ生スル根柢ナリ
英國政學家(ベヌサム)氏曰ク利用ノ根理ニ適シタル法律
ト虽氏或ハ時ノ輿論ニ背馳スルヲ保チ難シ然レ氏此背

馳アルハ一時ノ邂逅ニ過キサルヲ以テ苟モ其利用ノ根
理ニ的中セルヲ曉知セハ人心直キニ之レニ服従スヘ
シ一旦謬誤ノ覆帕ヲ脱シテ真面目ヲ認ムルヲ得ハ人
心ノ希望ハ忽チ満足シ輿論モ亦從テ之ニ傾向シテ法律
ノ趣意果シテ能ク利用ノ根理ニ適スルヲ益確乎的切ニ
ナルニ隨テ利用ノ效顯ヲ生スルモ亦益明白顯著ナリト
此言方今我官林上ノ事情ニ取テ最モ適切ナリト云ヘシ
蓋シ今日ニ在テ徃々世人ノ林政ヲ論スルモノハ仮令皮
相ノ謬見ヲ免カレサレモ必竟受林ノ精神ニ外ナラサレ
ハ早晚利用ノ根理ヲ曉知シ翻然本論ニ脱服スルハ疑フ
ヘキニアラス如何トナレハ凡ソ制度ノ要ハ利用ノ根理
ニ遵從スルノ外復他ニ能クスヘキ無キヲ信スレハナリ
故ニ暫ク茲ニ論戰ヲ休メ他日果シテ輿論ノ那邊ニ歸向

スルヤヲ見ントスル也

